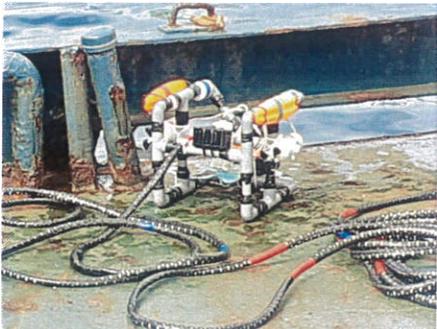


【NEDO助成事業】

事業名称	船舶修繕・点検作業でのROV群と技術者との協業作業の技術開発
フェーズ	PoC2 1日目
開催日時	2022年6月15日（水）9:00～11:00
開催場所	長崎市浪の平町 シンナガ(株)ドック岸壁
参加人員	佐伯（DPS）、松岡・七條・奥田・島添（長崎総合科学大学）、馬場（有明商事）、嶋（嶋潜水）、坂井（シンナガ）、内田（ネイバル）、小田・藤田（山一商事）計11名
実験内容 （別紙）	<p>① 潜水士の安全確保、作業監視が可能か</p> <p>② ROVにより潜水士の撮影補助（照明）が可能か</p> <p>③ ROVを介して潜水士と陸上監視員との意思疎通が可能か</p>
実験結果	<p>① 海の透明度低く、ROVと潜水士の距離1.5mで視認できず。カメラの画角も狭く、潜水士を適切に捉えることが難しい。⇒次回、潜水士にフラッシュライトを装備、ROV1台にカメラ1⇒2台（モニター2系統表示可）にて対応。また、有線ケーブルにも視認性アップのため蛍光ビニテ装着必要</p> <p>② 装備したROVの照明の光量ではやや効果薄い。光量アップはROV重量アップ、製造コスト増となる。費用対効果要検討。また、潜水士との適切な位置を保つため、ROVを後退させる場面も多く、プロペラの形状変更も必要</p> <p>③ 実験では並行して有線での会話をを行ったが、水中咽喉マイクでは陸上で聞き取りにくい場面が多くあり。メッセージボードでのやり取りやROVを横振り、縦振り反応を行うことでの意思疎通は有効</p>
実験の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【開始MTG】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【ROV操作】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>【ROV機器】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【潜水士】</p> </div> </div>